

## 4 再編・ネットワーク化

| 現行プラン記載事項  | 取組実績  | 課題   | 今後の取組・方向性  |
|--|---|--|--|
| <p>今後の取組</p>   |   |  |  |
| <p>○精神医療を担う緑ヶ丘病院及び向陽ヶ丘病院、小児の高度・専門医療を担う子ども総合医療・療育センターについては、それぞれの医療機能を十分に発揮しながら、他の医療機関からの患者受入など地域における医療連携に貢献していきます。</p>  | <p>【緑ヶ丘病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 31 年 2 月に「今後の緑ヶ丘病院の取組について」を取りまとめ、病床規模の適正化を図りつつ、引き続き、精神科医療の拠点としての機能を担っていくこととした。</li> </ul> <p>【向陽ヶ丘病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に関係機関を訪問し、地域に求められている医療機能や役割について、意見交換を実施。</li> </ul> <p>【コドモックル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定機能周産期母子医療センターとして、他の医療機関では対応が難しいハイリスクの胎児や新生児に対する周産期医療を提供。</li> </ul> | <p>【緑ヶ丘病院・向陽ヶ丘病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入院から在宅中心の国の基本理念に基づき、退院後の患者・家族に対する支援のより一層の充実を図るため、地域連携室を中心に関係機関と連携しながら、国が進める「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を進めることが必要。</li> </ul> <p>【コドモックル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定機能周産期母子医療センターとして、他の医療機関では対応が難しいハイリスクの胎児や新生児に対する周産期医療を提供していくことが必要。</li> </ul>                              | <p>○緑ヶ丘病院及び向陽ヶ丘病院については、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて、地域連携室を中心に関係機関と連携しながら、退院後の患者・家族に対する支援のより一層の充実を図る。</p> <p>○子ども総合医療・療育センターについては、高度・専門医療機能を十分に発揮しながら、他の医療機関からの患者の受入など地域における医療連携に貢献する。</p>          |
| <p>○高度・専門医療を担う北見病院については、平成 30 年 4 月から指定管理者制度を導入し、地方センター病院である北見赤十字病院との連携による相乗効果を最大限発揮しながら、相互の医療機能の充実に努めるとともに、医療従事者の確保や医療資源の有効活用に向けて更なる連携を進めます。</p>                                  | <p>【北見病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 30 年 4 月から指定管理者に日本赤十字社（北見赤十字病院）を指定し、運営を委任。</li> <li>オホーツク第三次医療圏における高度・専門医療の提供体制を更に充実するため、両病院の一体的運営により、地域完結型の医療提供体制の構築に努めている。</li> <li>心リハの経験を有する理学療法士 2 名を北見赤十字病院から配置され、心大血管疾患リハビリテーションを開始するなど、良質で安全な医療を地域住民へ提供。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>北見赤十字病院との一体的な運営により、オホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療提供体制の一層の充実が必要。</li> </ul>   | <p>○今後とも、隣接する北見赤十字病院との一体的な運営により、オホーツク第三次医療圏における循環器・呼吸器疾患に対する高度・専門医療提供体制のより一層の充実を図る。</p>  |
| <p>○江差病院及び羽幌病院については、それぞれ南檜山、留萌の各圏域において、当該病院単独で、高度急性期の機能を確保することが困難なことから、他圏域・医療機関との連携が必要です。このため、高度急性期患者の搬送対応のほか、南渡島や上川など他の圏域で展開されている医療連携ネットワークを有効に活用した情報の共有など、高度医療機関との連携強化を図ります。</p> | <p>【江差病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南渡島圏域の医療機関と連携し、高度急性期の患者に対応。</li> <li>イネット檜山により緊急搬送時に事前に直近の処方内容や検査内容を参照するなど活用を行っている。</li> </ul> <p>【羽幌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>留萌市立病院で急性期を脱した患者の受け入れを行っているほか、旭川赤十字病院や旭川医科大学病院で高度急性期を脱した患者の受け入れを行っている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステムを推進するため、地域の医療関係者、介護サービス事業者、自治体と連携し、入退院支援や緊急時の後方病床確保、医療情報の共有を図ることが必要。</li> <li>地域包括ケア病床の活用による急性期を脱した患者の受入、在宅療養の増悪時の受入、在宅復帰支援の充実が必要。</li> <li>他圏域の高度医療機関との連携により、圏域でカバーしきれない高度急性期医療を確保しながら、急性期治療終了後の患者の受入（在宅復帰支援、リハビリ継続）、外来化学療法継続が行える体制の維持・確保が必要。</li> <li>ICT を活用した診療情報の共有や連携、離島への診療支援の充実が必要。</li> </ul>          | <p>【江差】</p> <p>○地域医療構想の実現と地域包括ケアシステムの構築に向けて、江差病院においては、「地域医療連携推進法人」制度を活用し、医療機関や介護サービス事業者などの機能分担及び業務の連携を進める。</p> <p>○精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下していることから、地域の医療ニーズを把握しながら、今後の方向性を検討する。</p> |
| <p>○江差、羽幌の両病院と周辺医療機関における医療機器の共同利用などの病病連携、病診連携を推進します。また、地域医療構想の実現に向けた各圏域での病床数の調整状況、各医療機関の病床利用率や経営状況、医師等人材確保の状況などを見極めながら、病床機能の転換、医療機関の再編などの</p>                                      | <p>【江差病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和 2 年 3 月に「南檜山圏域の医療を確保するための行動方針」が取りまとめられ、圏域の中核的な役割を担う江差病院の機能強化と各町立病院等との医療機能のあり方の方向性について合意。</li> </ul> <p>【羽幌病院】</p>   | <p>【江差】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受け続けられる体制の構築を目指して設立する地域医療連携推進法人の機能を十分に発揮し、地域包括ケアシステムの構築に向けた支援を行うことが必要。</li> <li>精神医療については、二次医療圏で唯一の入院医療を提供している中、病床利用率が低下していることから、地域の医療ニーズを把握しながら、今後の方向性を検討することが必要。</li> </ul> <p>【羽幌】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同一圏域の他の地域センター病院である留萌市立病院との役割分担を図りつつ、総合診</li> </ul> | <p>【羽幌】</p> <p>○同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院との役割分担・連携を図りながら、総合診療を中心とした体制により、留萌中北部地域のかかりつけ医、救急医療機関としての役割</p>  |

| 現行プラン記載事項  | 取組実績  | 課題  | 今後の取組・方向性   |
|--|---|---|---|
| <p>可能性を含めた今後の医療提供体制のあり方について、地域医療構想調整会議を活用するなど、地域の関係者と協議する場を設け、検討を進めます。</p> | <p>・令和2年1月に留萌圏域で中心的な役割を果たしている5病院を集めた意見交換会が開催され、今後の地域医療の推進と連携の課題等について議論を行った。</p> | <p>療を中心とした体制により、留萌中北部地域のかかりつけ医、救急医療機関としての役割を担っていくことが必要。</p> | <p>を担っていく。</p> <p>【2病院共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○許可病床数と稼働病床数の適正化に努めるとともに、今後とも空き病床の有効活用を進める。</li> <li>○ICTを活用した診療情報の共有や離島への診療支援を行うとともに、地域医療構想調整会議の活用を図るなどして、地域の関係機関との連携を一層進める。</li> </ul> |